

## 9 調査・研究

### (1) 基本的な考え方

博物館における調査・研究活動は、資料の収集・保存・展示・教育普及活動の根幹を成すものであり、当館の基本構想および理念を基に、次の点に留意して行う。

- その成果が市民に還元できるものであること。
- 当館の設立主旨に沿ったものであること。
- 将来、展示に活かされるものであること。
- 科学的・客観的なものであること。

### (2) 調査・研究の目標

#### ア 館共通

熊本の歴史と自然および科学技術についての研究を行う。

#### イ 分野別

##### 【地質分野】

熊本県内を中心に地質・化石の調査を行う。

##### 【動物分野】

熊本県内の動物分布に関する調査を行う。

##### 【植物分野】

熊本県内の植物分布に関する調査を行う。

##### 【理工分野】

楽しく活動しながら自然科学の原理や技術について体感できるような体験型プログラムの開発を目指すとともに、理工分野関連の企画等について調査・研究する。

##### 【考古分野】

熊本市内の考古資料を中心に寄贈コレクションも調査・研究する。収蔵資料の多くが未整理のため、分類・整理・資料紹介に努め、市民や研究者等が活用できるようにする。

##### 【民俗分野】

熊本博物館所蔵の資料整理ならびに展示をすすめる、市民や来館者に新たな情報を提供することを目的とする。

##### 【歴史・美術工芸分野】

熊本博物館所蔵資料の調査・整理を行い、歴史・美術史・工芸史の観点からの研究をすすめる、市民や来館者への情報提供、展示に活用するための準備に努める。

##### 【保存科学分野】

熊本博物館の館内環境を調査し、展示品や収蔵品に適切な状態を保つことを目的とする。

また、資料の修復などについて担当学芸員と相談のうえ、適切な処置の方法を考える。

#### ウ 今年度の調査・研究の目標及び活動

##### 【地質分野】

館蔵地質資料の整理・再調査。

阿蘇火砕流堆積物中の球状物の調査。

阿蘇火砕流堆積物中の埋もれ木調査。

古生物学・地質学の学習プログラム開発。

##### 【動物分野】

金峰山山系及び江津湖の動物相調査。

##### 【植物分野】

金峰山及び江津湖を中心とした市内植物相の調査。

##### 【理工分野】

子ども科学・ものづくり教室に係る科学実験や科学工作等の開発・工夫。

学校教育支援事業に係る学習プログラムや教材・教具等の開発・改善。

##### 【考古分野】

館蔵資料の再調査を行い、資料価値を高めて展示し、多くの市民に重要性を紹介する。

##### 【民俗分野】

宮本常一展に合わせ、故郷・周防大島などで宮本の遺品類を調査。共催展と関連して、所蔵する妖怪に関する郷土玩具の調査。

学校教育支援事業での利活用に向けた、館蔵資料の調査と整理。

**【歴史・美術工芸分野】**

次年度以降の企画展・特別展に向けて、資料調査を実施。

その他、寄贈資料受け入れに伴う諸調査など。

**【保存科学分野】**

博物館内の温湿度や空気質等を測定するほか、展示室や収蔵庫内の塵埃量と文化財害虫の有無を調査し、年間を通じての動向や傾向を調査・比較している。